

「ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業」における工程表

申請担当大学名	名古屋大学
連携大学名	岐阜大学
事業名	医療人類学とバーチャル教育を活用した屋根瓦式地域医療教育(濃尾+A)

① 本事業終了後の達成目標

本事業終了後の達成目標	
達成目標	<p>ローカルな医療状況とアカデミックな視点を架橋する潜在力を持った以下のような人材を養成する。(令和4年度以降延べ1,134名程度) 以下の3つのモデルを統合した、地域ニーズに対応した人材を継続的に養成するコースを構築する。(各校1コース、計2コース)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療人類学の知見・方法をローカルな医療状況とアカデミックな視点を架橋する能力の養成に活かしたモデル ・大学と地域をつなぐバーチャルな学修環境を含めた大学医学部における新たな教育連携のモデル ・地域卒学生の教育に関わる地域医療機関の指導医養成のモデル <p>アカデミックな目線を持った総合診療分野のキャリア支援をつうじた、地域医療、特に僻地医療に従事する医師のキャリアの新たなあり方の提案する。</p>

② 年度別のインプット・プロセス、アウトプット、アウトカム

		R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度
インプット・プロセス (投入、入力、活動、行動)	定量的なもの	<ul style="list-style-type: none"> ・関係教員及び事務職員10名程度雇用 ・地域医療医学プログラム NOVI+A(岐大)コース履修人数24名(1年次) 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域医療医学プログラム NOVI+A(名大)コース履修人数10名(1年次) ・地域医療医学プログラム NOVI+A(岐大)コース履修人数68名(1年次38名・2年次30名) 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域医療医学プログラム NOVI+A(名大)コース履修人数20名(1年次10名・2年次10名) ・地域医療医学プログラム NOVI+A(岐大)コース履修人数106名(1年次38名・2年次38名・3年次30名) 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域医療医学プログラム NOVI+A(名大)コース履修人数30名(1年次10名・2年次10名・3年次10名) ・地域医療医学プログラム NOVI+(岐大)コース履修人数144名(1年次38名・2年次38名・3年次38名・4年次30名) 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域医療医学プログラム NOVI+A(名大)コース履修人数40名(1年次10名・2年次10名・3年次10名・4年次10名) ・地域医療医学プログラム NOVI+A(岐大)コース履修人数174名(1年次30名・2年次38名・3年次38名・4年次38名・5年次30名) 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域医療医学プログラム NOVI+Aコース履修人数50名(1年次10名・2年次10名・3年次10名・4年次10名・5年次10名) ・地域医療医学プログラム NOVI+A(岐大)コース履修人数204名(1年次30名・2年次30名・3年次38名・4年次38名・5年次38名・6年次30名) 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域医療医学プログラム NOVI+A(名大)コース履修人数40名(1年次10名・2年次10名・3年次10名・4年次10名・5年次10名・6年次10名) ・地域医療医学プログラム NOVI+A(岐大)コース履修人数204名(1年次30名・2年次30名・3年次30名・4年次38名・5年次38名・6年次38名)
	定性的なもの	<ul style="list-style-type: none"> ・地域卒卒業医師・地域医療指導医の掘り起こし地域卒卒業医師・地域医療指導医の掘り起こし ・令和5年度新1年生のカリキュラム構築 ・令和5年度2年生の医療人類学系講義開催のための準備 ・学外実習機関の執行部・指導医との打ち合わせ会議 ・バーチャル地域医療教育を行うための機器を購入 ・e-learningシステム構築のため各科への調査を実施 ・国内外の先進的な地域医療カリキュラムの調査 ・ホームページ公開 ・Twitter開設 ・名古屋大学・岐阜大学における地域医療カリキュラム改変に関する討論 ・地域医療人材養成のための地域医療電子ポートフォリオシステムの構築 ・地域医療電子ポートフォリオ構築に向けた調査研究 ・地域医療電子ポートフォリオシステムプロトタイプ構築 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域卒卒業医師・地域医療指導医の掘り起こし地域卒卒業医師・地域医療指導医の掘り起こし ・1年生向け科目開講 ・2年生の医療人類学系講義開催 ・令和6年度新2年生のカリキュラム構築 ・バーチャル地域医療教育トライアルを実施 ・e-learningシステムを構築しトライアルを実施 ・ホームページ運用 ・地域医療電子ポートフォリオシステムのプレ導入 ・地域医療電子ポートフォリオシステムプロトタイプに関する評価を開始 ・地域医療電子ポートフォリオシステムの本システム構築開始 ・学内での地域医療電子ポートフォリオシステムプロトタイプ試験運用開始 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域卒卒業医師・地域医療指導医の掘り起こし地域卒卒業医師・地域医療指導医の掘り起こし ・2年生向け科目開講 ・令和7年度新3年生のカリキュラム構築 ・バーチャル地域医療教育を臨床実習での必修教育プログラムで開講 ・e-learningシステムを臨床実習に展開 ・ホームページ運用 ・地域医療電子ポートフォリオシステム導入用FDの実施 ・地域医療電子ポートフォリオシステム更新の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域卒卒業医師・地域医療指導医の掘り起こし地域卒卒業医師・地域医療指導医の掘り起こし ・3年生向け科目開講 ・令和8年度新4年生のカリキュラム構築 ・バーチャル地域医療教育を臨床実習での必修教育プログラムで実施 ・e-learningシステムを臨床実習に展開 ・ホームページ運用 ・地域医療電子ポートフォリオシステム導入用FDの実施 ・地域医療電子ポートフォリオシステム更新の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域卒卒業医師・地域医療指導医の掘り起こし地域卒卒業医師・地域医療指導医の掘り起こし ・4年生向け科目開講 ・令和9年度新5年生のカリキュラム構築 ・バーチャル地域医療教育を臨床実習での必修教育プログラムで実施 ・e-learningシステムを臨床実習に展開 ・ホームページ運用 ・地域医療電子ポートフォリオシステム導入用FDの実施 ・地域医療電子ポートフォリオシステム更新の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域卒卒業医師・地域医療指導医の掘り起こし地域卒卒業医師・地域医療指導医の掘り起こし ・5年生向け科目開講 ・令和9年度新6年生のカリキュラム構築 ・バーチャル地域医療教育を臨床実習での必修教育プログラムで実施 ・e-learningシステムを臨床実習に展開 ・ホームページ運用 ・地域医療電子ポートフォリオシステム導入用FDの実施 ・地域医療電子ポートフォリオシステム更新の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域卒卒業医師・地域医療指導医の掘り起こし地域卒卒業医師・地域医療指導医の掘り起こし ・1年生～6年生までのカリキュラムの継続と評価 ・バーチャル地域医療教育を臨床実習での必修教育プログラムで実施 ・e-learningシステムを臨床実習に展開 ・ホームページ運用 ・地域医療電子ポートフォリオシステム導入用FDの実施 ・地域医療電子ポートフォリオシステム更新の実施

	定量的なもの	・文化人類学と地域医療の協働に係るシンポジウムを開催(開催回数1回)	・シンポジウムを開催(開催回数1回予定) ・オンデマンド教材コンテンツの整備(学生向け5本程度、指導者向け1本程度を予定)	・シンポジウムを開催(開催回数1回予定) ・行政への経過報告を行う(年2回) ・オンデマンド教材コンテンツの整備(学生向け5本程度、指導者向け1本程度を予定)	・シンポジウムを開催(開催回数1回予定) ・行政への経過報告を行う(年2回) ・オンデマンド教材コンテンツの整備(学生向け5本程度、指導者向け1本程度を予定)	・シンポジウムを開催(開催回数1回予定) ・行政への経過報告を行う(年2回) ・オンデマンド教材コンテンツの整備(学生向け5本程度、指導者向け1本程度を予定)	・シンポジウムを開催(開催回数1回予定) ・行政への経過報告を行う(年2回) ・オンデマンド教材コンテンツの整備(学生向け5本程度、指導者向け1本程度を予定)
アウトプット(結果、出力)	定性的なもの	・行政への経過報告 ・学内外への本プログラムの情報発信 地域医療電子ポートフォリオシステム導入用指導者養成(FD)の開催(名古屋大・岐阜大合同) ・学内での地域医療電子ポートフォリオシステムプロトタイプ試験運用開始	・行政への経過報告 ・ホームページによる情報発信 ・学生向けの地域医療電子ポートフォリオ使用に関するワークショップ(名古屋大・岐阜大合同) ・地域医療電子ポートフォリオシステムプロトタイプを用いたプログラム評価報告会の開催	・新カリキュラムの評価とその結果を受けての改善 ・行政への経過報告 ・学生向けの電子ポートフォリオ使用説明会(名古屋大・岐阜大合同) ・地域医療電子ポートフォリオシステムプロトタイプを用いたプログラム評価報告会の開催 ・ホームページによる情報発信	・新カリキュラムの評価とその結果を受けての改善 ・地域枠学生のアウトカムに関する研究中間報告の実施 ・地域枠学生のキャリアに関する研究中間報告の実施 ・地域医療電子ポートフォリオシステムを用いたプログラム評価報告会開催 ・行政への経過報告 ・ホームページによる情報発信 ・学生向けの電子ポートフォリオ使用説明会(名古屋大・岐阜大合同)	・新カリキュラムの評価とその結果を受けての改善 ・地域医療電子ポートフォリオシステムを用いたプログラム評価報告会開催 ・行政への経過報告 ・ホームページによる情報発信 ・学生向けの電子ポートフォリオ使用説明会(名古屋大・岐阜大合同)	・新カリキュラムの評価とその結果を受けての改善 ・事業成果普及のための地域枠学生のアウトカムに関する研究最終報告の実施 ・事業成果普及のための地域枠学生のキャリアに関する研究最終報告の実施 ・終了時外部評価 ・行政への経過報告 ・ホームページによる情報発信 ・学生向けの電子ポートフォリオ使用説明会(名古屋大・岐阜大合同)
アウトカム(成果、効果)	定量的なもの		・進路選択希望調査における、地域で必要とされている3診療科(総合診療科、救急科、感染症科)を候補にあげる学生の経年的増加	・地域枠・地域医療を志すコース履修生の増加 ・進路選択希望調査における、地域で必要とされている3診療科(総合診療科、救急科、感染症科)を候補にあげる学生の経年的増加	・地域枠・地域医療を志すコース履修生の増加 ・進路選択希望調査における、地域で必要とされている3診療科(総合診療科、救急科、感染症科)を候補にあげる学生の経年的増加	・地域枠・地域医療を志すコース履修生の増加 ・進路選択希望調査における、地域で必要とされている3診療科(総合診療科、救急科、感染症科)を候補にあげる学生の経年的増加	・地域枠・地域医療を志すコース履修生の増加 ・進路選択希望調査における、地域で必要とされている3診療科(総合診療科、救急科、感染症科)を候補にあげる学生の経年的増加 ・卒業生の地域で必要とされている診療科(総合診療科、救急科、感染症科など)の進路選択者の増加
	定性的なもの	・本事業の認知向上	・本事業の認知向上 ・国内外の関連学会や雑誌への活動に関する報告や研究成果などを発表・投稿	・本事業の認知向上 ・国内外の関連学会や雑誌への活動に関する報告や研究成果などを発表・投稿	・本事業の認知向上 ・国内外の関連学会や雑誌への活動に関する報告や研究成果などを発表・投稿	・本事業の認知向上 ・国内外の関連学会や雑誌への活動に関する報告や研究成果などを発表・投稿	・本事業の認知向上 ・国内外の関連学会や雑誌への活動に関する報告や研究成果などを発表・投稿

③ 選定委員会所見に対する対応方針

要望事項	内容	対応方針
①	常に先進的・革新的な取組内容となるよう自己点検・評価のみならず、医療現場・自治体等のニーズを取り入れるための努力を欠かさないこと。	医療人類学の医学教育・地域医療教育への導入について、国内外の先行事例・研究を広範に調査し、そこから得られた知見を参考にする。
②	代表校のみならず連携校も含め、長期的な展望に基づく具体的な事業継続方針を策定の上、補助期間終了後は、成果の波及とともに更に発展的な取組として実施できるよう工夫して取り組むこと。	事業が終了し、モデル化できた後もプログラム卒業生と東海地区の地域医療を担う医療機関や行政等との関係を維持・発展させ、本事業を安定的に継続運営できる人的リソースとして関わり続けてもらうよう働きかけていく。

④ 選定委員会からの主なコメントに対する対応方針

選定委員会からの主なコメント(改善を要する点)	対応方針
全体の養成目標人数、特に申請校の人数が少なめに設定されている	・開講するコースは必修科目も含むため、コース履修生以外の全医学科生を対象とする。
事業主体者と評価者IR室が同じであることは客観的評価の阻害因子である。両大学ともに地域医療学講座中心で医学部全体で取り組む姿勢に乏しい。	・地域医療教育学も、地域医療機関との連携、行政機関(愛知県・岐阜県)との連携、地域枠学生や地域枠医師および地域指導医への本事業の活動に関する周知やリクルートに貢献している。 ・本事業にも関連する東海国立大学機構医学教育連携ワーキンググループは、医学教育部門だけでなく、臨床疫学部門の教員が参加するなど、医学部全体の活動として広がりを見せている。 ・外部評価者を導入し、毎年度毎の評価を翌年度以降に反映させる
事業終了後には外部資金によって継続する計画となっているが、安定的な継続運営を目指して多面的な計画を検討した方が望ましい。	・資金のかかる開発を事業年度内に集中的に行い、既存のシステムに増設する構造にする為、事業終了後は既存のシステムのランニングコストのみで運用可能である。コースのランニングコストが低額の為、既存の地域医療講座で引き継ぐことが可能である。また遠隔教育に必要なデバイス等機材への経費に対して初期投資は必要であるが、継続に必要なルーター等の費用は既存の講座費等で賄える見込みである。
5G回線を使ったバーチャルローテート実習の維持費と機材更新費が高額になる可能性があり、継続性の面で不安が残る。	5G回線を使った実習を初期の開発段階で実施し、その後は録画も活用した持続可能な形に変更することで維持費を抑える等、長期的な展望で該当実習の計画を策定し直している。 遠隔教育にかかる経費については、デバイス等機材への初期投資は必要であるが、継続に必要なルーター等の費用は既存の講座費等で賄える。
3年目以降の計画は前年と同じであり具体性が乏しい。	事業展開は順次進んでいき、修正する予定である